

春期特別展

# 太陽活動をさぐる

—第22太陽活動期から—

3月19日(土)

~4月10日(日)

■変わらないもの、わけへだてのないもの、穏やかなものの代表が太陽です。しかし太陽の表面では、ダイナミックな活動が起きています。

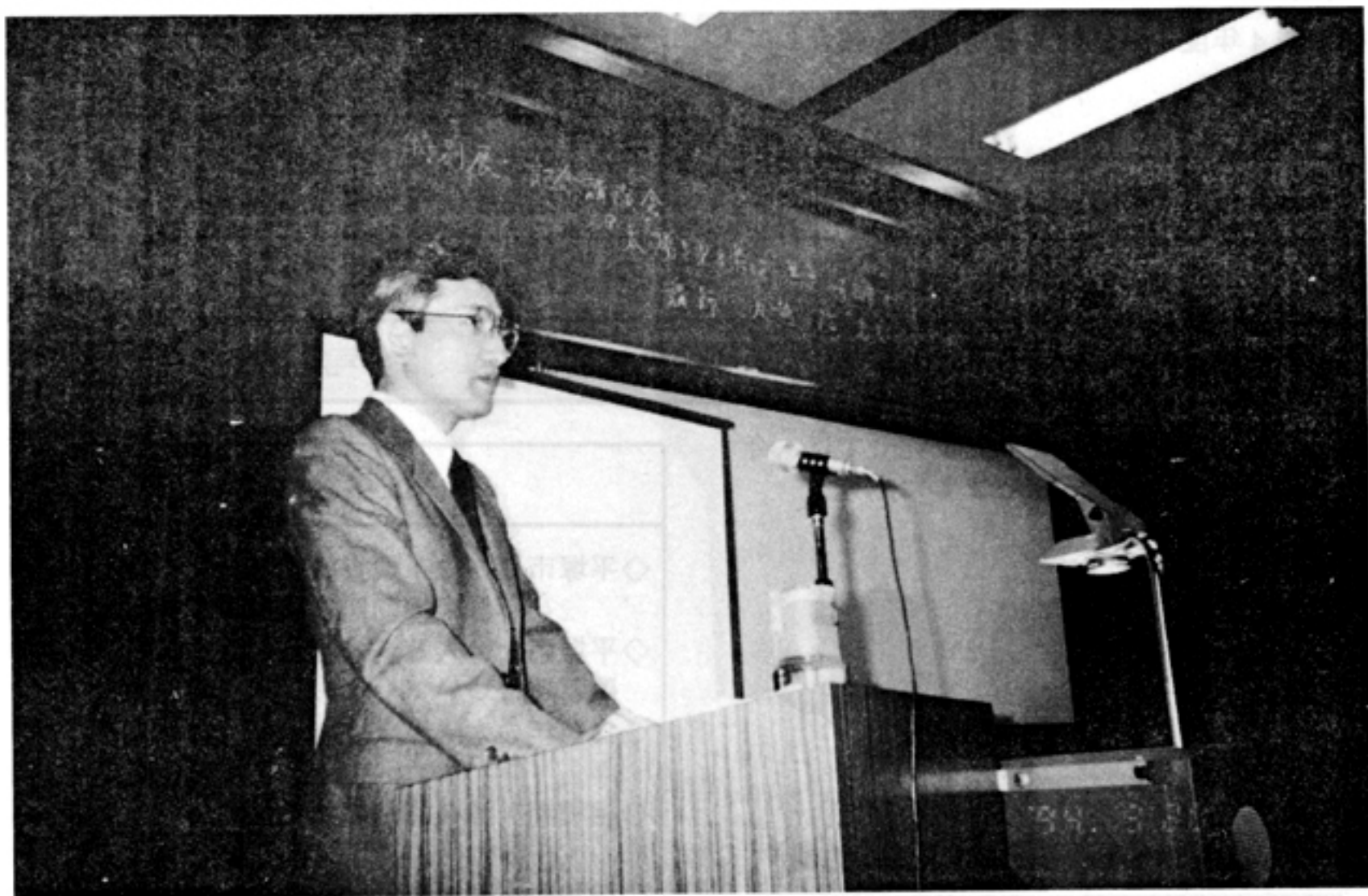
■私たち人類は17世紀頃からその活動を太陽表面に現れる黒点によって理解し始めました。そして太陽を知るにつれて太陽を取り巻く大気、コロナが注目を浴びています。皆既日食にしか見られなかったコロナも今では地球の外での人工衛星「ようこう」の観測で刻々と変化するようすがわかるようになりました。そして、地上の光と電波による観測と合わせ、その振るまいやコロナ中で起こるフレ

アと呼ぶエネルギーの爆発的な開放現象が太陽磁場と深いかかわりがあることが確かめられてきました。

■今回の特別展では、1986年、第22期の太陽活動が始まってから、89年、91年に起きた大きな活動、貴重な白色光フレアの観測記録、皆既日食で見た美しいコロナの写真などを通して、明らかにされ始めた太陽の様々な現象を紹介します。

写真：太陽のプロミネンス

(国立天文台撮影)



春期特別展  
太陽をさぐる  
記念講演会開催

## 『太陽を見る楽しさ —黒点から日食まで—』

■去る 3月20日日曜日、春期特別展「太陽活動をさぐる」の記念行事として、日食観測家の大越 治先生をお迎えして「太陽を見る楽しさ—黒点から日食まで—」と題した講演会が開催されました。

■毎日変わらぬ姿を見せる太陽ですが、その表面は絶えず変化し、黒点・プロミネンス・フレアといった様々な現象が起こっています。それらの観測の仕方について、ご自身の体験談を交えながら分かりやすく説明して下さいました。

■圧巻はやはり最も美しい自然現象といわれる皆既日食についてで、観測者として、さらには日食観測に役立つ情報の提供者としても活躍されている同氏の情熱が参加者にも伝わり、講演終了後、皆既日食を見に行きたくなったという声も聞かれたほどでした。

■日々多くの恩恵を受けながら、意外なほど気付かなかった太陽の素顔を、分かりやすく案内していただき、実に興味深いひとときでした。【天体観察会々員：川合慶一氏記】